

本メルマガは、当社「日税主催研修」「日税オンデマンド」でもご活躍いただいている(株)事業パートナーの代表取締役社長・松本 光輝先生に 300 社を超える会社の再生の成功体験をもとに、金融機関交渉に関して Q&A 形式でまとめて頂きました。この情報が関与先様へのアドバイスの一助となれば幸いです。

■現状

業種：省エネ空調等の卸・施工を主とした事業

創業後 3 年間は、何時止めるかとばかり考えていたが、4 年目の 2011 年度は福島原発事故の影響で節電意識が高まり、初めて黒字となる。売上 2,000 万円で 150 万円の黒字、2012 年度は売上 1,500 万円で数十万円の黒字であった。

しかし、2013 年度、2014 年度と 1,000 万円弱の売上に減り、今期は全くどうしようもない状況となっている。上期は前年比で売上 100 万円減、下期の状況によっては挽回可能であったが、下期に入ってから全く動きがなく廃業を考えている。

■質問内容

廃業するにあたり、金融機関からの借り入れが 1,000 万円（保証協会分 2 行 500 万円と政策金融公庫 500 万円）あるので、個人の不動産を担保に兄弟から借入し全額返済を考えているが、会社への個人貸付（生命保険借入と妻からの借入）が同額程度あり、回収しなければ今後の生活の見通しが立たない。

現在まで、借入返済の滞りはない。どう勧めたら良いか？

◆アドバイス

整理すると

1. 銀行借入 1,000 万円（保証協会保証分 500 万円と日本公庫 500 万円）
2. 妻からの借入
3. 生命保険会社からの借入

※ 2 と 3 が併せて 1,000 万円

合計：2,000 万円の借入残

将来の事業の見込みが立たないので廃業したいが、どのようにしたら良いか？との相談。廃業を前提にすると考えなければならないことは、

1. 廃業後の生活の確保
2. 不動産をいかに守るか？
3. 2,000 万円の返済はどのようにするか？

上記の順番で考える。

◆対策

1. 廃業後の生活の確保

廃業時における借金の残を早急に返済しないで良いと考えて、廃業後は就職するか、新たに事業を起こすか、地方で農業、林業、水産業その他、人手不足の業態で仕事をする。

2. 不動産をいかに守るか？

この不動産が現在の自宅だとすると

- ①担保に入っていないければ、所有権の移転をして住み続ける。
- ②担保に入っていれば、リースバックをして住み続ける。
- ③引越しをして良ければ、売却して精算する。

3. 2,000万円の返済はどのようにするか？

<妻と生命保険会社からの1,000万円の借入について>

1年後に廃業する計画を立てて、その間に妻への返済と生命保険会社への返済は利益を作って行う。機械等の設備も売却して返済に充てる。

<銀行からの1,000万円の借入について>

今から銀行借入と日本公庫の返済はリスクする。保証協会分は代位弁済とする。このリスクによって生じた銀行返済分の余剰資金は、妻や保険会社への返済に充てる。

上記の1~3をしっかりと計画を立てて実行すること。

[執筆者プロフィール]

松本 光輝 株式会社事業パートナー 代表取締役

40年にわたり、飲食業を中心に会社経営。バブル崩壊時に25億円の負債を抱え、その後3年半でその負債を解消する。2003年より、事業再生請負人として全国行脚中。この間、依頼先の多くが1~2ヶ月以内に、資金ショートに陥るおそれがあるという危機的状況の中から、1社も倒産させることなく、300社を優に越える会社の再生を成功させる。

◎過去の経験を活かして、中小企業経営者の最高の相談者となるべく、活動を続けている。

◎経営者はもとより、幹部社員の皆様・社員の皆様の声をくみ上げ、共に全社一丸となった再生を達成すべく、全力で取り組んでいる。着手後、30日以内に再生計画を作成して、実行に移している。

◎会社を3年かけて再生させる独自の再生術は、他に類を見ません。

■■■■■ 著作権 など ■■■■■

著作権者の承諾なしにコンテンツを複製、他の電子メディアや印刷物などに再利用(転用)することは、著作権法に触れる行為となります。また、メールマガジンにより専門的アドバイスまたはサービスを提供するものではありません。貴社の事業に影響を及ぼす可能性のある一切の決定または行為を行う前に必ず資格のある専門家のアドバイスを受ける必要があります。メールマガジンにより依拠することによりメールマガジンをお読み頂いている方々が被った損失について一切責任を負わないものとします。